

先の衆院選で初当選した民主党の石津政雄氏、玉木雄一郎氏、福島伸享氏、山岡達丸氏、石山敬貴氏の新人議員5人が、永田町で「新選組」と呼ばれ始めている。

幕末期に活躍した

新選組になぞらえたもので、別称「農林見回り組」。同党の衆院農林水産委員会の質問等研究会で頭角を現し、メンバーの多くが昨年12月、**民主に新選組登場?** 党農林幹部らとともに幹事長室に駆け込み、戸別所得補償モデル対策の予算確保や激変緩和措置を小沢一郎幹事長に要望したことでも名を上げた。

石津氏は茨城県の元大

洋村村長、玉木氏はJA組合長の祖父や経済連職員の子を持つ二元財務官僚、福島氏は東大農学部卒で元経産官僚、山岡氏は元マスコミ関係、石津氏は宮城県の現役農家で、多彩な経歴を持つ顔触れが並ぶ。

新選組のモットーは「政務三役を支える現場主義」。ただ、鳩山政権が掲げる政策決定の内閣一元化の中で、政策立案に参与する機会が限られ不満も募る。新人教育に当たる小平忠正氏は「次世代の民主党農政を担う人材育成に向けて政府・与党は、新人議員らに活躍の場を設ける必要があるのだが……」と気をもむ。